

ごあいさつ

南方熊楠が誕生したのは紀州藩の城下町、和歌山で、明治維新时期に熊楠は育ちました。当時の和歌山は全国で八番目の大都市で、熊楠はその繁華街で誕生し、文化的な環境で育ちました。熊楠が海外や国内で学問一筋の生活を送れたのは、父南方弥兵衛（弥右衛門）や弟南方常楠の経済的な支援があったからです。

熊楠が後半生を送った熊野での研究生活を支援した人々のなかには、英国で知り合った徳川頼倫公や、キノコ四天王とよばれた人々もいます。

熊楠の没後、娘文枝の婿岡本(南方)清造博士らの努力によってここ、白浜町の番所山に南方熊楠記念館が設立され、熊楠の資料を保存し、その業績を世間に紹介する活動が始まりました。設立当時の記録は本館出版の「久遠の光」に、その後の活動は「番所山通信」などに残されています。

熊楠の業績に光が当てられ、その思想が次第に明らかにされると、南方熊楠を尊敬し、その影響を受けたひとたちによって、学術研究は勿論ですが、文学や書、絵画、漫画、工芸、演劇、音楽などの芸術作品がたくさん作られるようになってきました。

熊楠の自然保護思想は、ナショナルトラストの「天神崎の自然を大切にする会」や、南紀熊野ジオパーク推進協議会の活動などへ受け継がれています。

今では熊野・熊楠を愛するひとたちはたくさんいますが、本特別展では、そのごく一部を紹介しています。本特別展で、このひとたちを引き付けた熊野・熊楠の魅力が伝われば幸いです。ごゆっくりご鑑賞ください。

公益財団法人 南方熊楠記念館

館長 谷脇 幹雄